

# ニューファーマーの力

ニューファーマーとは…新たに専業として農業に従事し経営を続けていく意志と条件を有している64歳以下の人

## 農業に夢を持って

細川潤一さん（備中町西油野）

トマト農家の細川潤一さん69。「いつかは農業をやりたい」との夢を持ちながら少年時代を笠岡市で過ごし、高校卒業後は愛知県の自動車部品メーカーに就職。

「当時、農業のことは全く気にしてなかった」と話す細川さんが、あらためて農業を意識するきっかけになったのは、新聞で目にした「岡山で農業を始めませんか」の記事。岡山で研修しながら研修費の支給もあることを知り、小さいころの夢が再び燃え上がった細



川さんは、平成11年11月に備中町を訪れ、その後2年間の研修を経て、この地に就農しました。

トマト栽培では、クロマルハナバチや養液土耕システム2液式の導入など、当時では画期的な方式を取り入れました。

「やりたいことをやれるので苦勞という思いはないですよ」と細川さん。自動車部品開発に携わっていた細川さんにとって、新しい挑戦は不安よりも期待が大きいです。奥さんの広美さんも「迷ってる暇はなかったです。とにかく前を向いて進んできました」と話します。

## ニューファーマーの育ての親

中迫さん夫妻（備中町東油野）



これから農業を始めようとする人には周りの人の手助けが必要です。

中迫英典さん64・貞子さん68夫妻は、これまで多くのニューファーマーを手助けしてきました。県の依頼もあって、平成5年から新規就農者の受け入れを始め、自ら蓄積した栽培技術を指導し、これまで教えた研修生は延べ20人を超えます。

「最初は不安もありましたが、初めて受け入れたのが県ニューファーマーズ制度事業第1号の山田徹さん。彼はとても熱心で、今では市内でも上位の経営力を誇り、後輩の指導にも熱心に当たってくれています」と貞子さん。

英典さんも「産地を守る上で、彼らの力は大きい。彼らとともに頑張りたい」と話します。

## 自然環境を学び地域に貢献できる人に

高梁城南高校

市内には、農業にも関連した自然環境が学べる県立高梁城南高等学校があります。

同校環境科学科では、植物の栽培など自然環境に関する学習を通じて環境保全を考え、地域に貢献できる人づくりを行っています。

渡邊仁晴君（環境科学科1年）は「小さいころから植物が好きで、植物バイオや草花の生態などに興味を持って勉強しています。将来は、進学してさらに専門的なことを学び、農業関係の仕事に携わりたい」と話してくれました。

また、指導にあたる環境科学科長・内田泰広教諭(初)は「将来どんな職についても、地にしっかり足が付き、環境のことを考えていける人になってほしい。できれば地元で活躍してくれれば」と生徒たちに期待を寄せています。



草花実習で花壇づくり

# 家業を継いで酪農

三村洋平さん（宇治町本郷）

平成12年に家業の後継ぎとして酪農に就いた三村洋平さん(28)。父親の裕さんとともに、乳牛60頭、和牛10頭を飼育しています。

子どものころから牛が好きで、よく手伝いもしていた三村さんですが、「長男なので将来は継ぐのかな」と、たذبんやりと思っていた程度でした。それが、いつしか思いは募り、中四国酪農大学校へと進んで、酪農を継ぐ意志が固まりました。

学生時代には、オーストラリアの酪



農家へ泊り込み、2カ月間研修した体験も。広い土地で放牧しながらの飼育は理想的で、日本とはずいぶん異なる酪農だったといいます。

また、大学卒業後4年間は半日を家で働き、残りの半日は吉備中央町の牧場で働きました。

こうした経験と、これまで父親が培ってきたことを学びながら、最近では先進的な酪農技術を試みて、良質な生乳生産にこだわっており、平成17年度は県の乳質優秀賞、翌年度は最優秀賞である「乳質改善褒賞」を受賞。また、高梁市後継者クラブ会長を務め、昨年はクラブを代表して県下の青年農業者発表大会で優秀賞に輝きました。

「乳価の低迷と最近の飼料代の高騰もあって、酪農経営は大変ですが、12月には結婚するので、よりいっそう頑張らなければと思っています。将来は、単に乳を搾って出荷するだけでなく、アイスクリーム製造などを行い、付加価値を付けて販売できれば」と語ってくれました。

# 新規就農者への支援

## 榮農王国 山光園

榮農王国「山光園」は、旧備中町が特産品のトマト、ピオーネの後継者育成と規模拡大、新規就農者、若者定住を目的として整備。西山地区の標高480㍎の山林を切り開いて約12㍎の農地を整備した施設で、平成15年8月に開園しました。

農地と住居が整備されており、就農への支援策も充実していることから就農希望者の関心も高く、現在この「山光園」には、関東、関西などから10家族35人が移り住んでいます。

このうちトマト農家は7家族で市内のトマト総出荷量の17.5%(平成19年度・221ト)を占めています。

■問い合わせ 備中地域局産業建設課

(TEL) 4514



	就農者の前住所地	計
15年度	東京・神奈川(2) 岡山・兵庫	5組
16年度	栃木・京都・神奈川(2)	4組
17年度	北海道	1組